

IV 基礎統計表（単独集計） 発達障害者の親からの回答

回答数 1069

[1]① 続柄

続柄	数	比率
[1]①a 父	50	5%
[1]①b 母	1004	94%
[1]①c その他	9	1%
[1]①0 未回答	6	1%
計	1069	100%

[1]② 回答者の都道府県

回答者の都道府県	数	比率
1 北海道	64	6%
2 青森県	0	0%
3 岩手県	5	0%
4 秋田県	8	1%
5 宮城県	28	3%
6 山形県	1	0%
7 福島県	1	0%
8 茨城県	27	3%
9 栃木県	19	2%
10 群馬県	11	1%
11 千葉県	39	4%
12 埼玉県	29	3%
13 東京都	57	5%
14 神奈川県	79	7%
15 新潟県	89	8%
16 長野県	14	1%
17 山梨県	13	1%
18 静岡県	41	4%
19 愛知県	132	12%
20 岐阜県	31	3%
21 富山県	20	2%
22 石川県	18	2%
23 福井県	6	1%
24 三重県	4	0%
25 和歌山県	0	0%
26 奈良県	16	1%
27 滋賀県	15	1%
28 京都府	2	0%
29 大阪府	85	8%
30 兵庫県	75	7%
31 岡山県	2	0%
32 鳥取県	3	0%
33 広島県	30	3%
34 島根県	0	0%
35 山口県	0	0%
36 徳島県	8	1%
37 香川県	0	0%
38 愛媛県	2	0%
39 高知県	1	0%
40 福岡県	54	5%
41 佐賀県	1	0%
42 長崎県	23	2%
43 熊本県	6	1%
44 大分県	2	0%
45 宮崎県	5	0%
46 鹿児島県	0	0%
47 沖縄県	3	0%
48 日本以外	0	0%
S その他	0	0%
計	1069	100%

[2]① 子どもの年代

子どもの年代		数	比率
[2]①a	18・19 才	133	12%
[2]①b	20 才代	647	61%
[2]①c	30 才代	240	22%
[2]①d	40 才代	37	3%
[2]①e	50 才代	3	0%
[2]①W	複数回答	4	0%
[2]①0	未回答	5	0%
計		1069	100%

[2]② 現在の診断・判定・教育的判断（複数回答）

現在の診断・判定・教育的判断		数	比率
[2]②a	LD	196	18%
[2]②b	AD/HD	193	18%
[2]②c	ディスレクシア	28	3%
[2]②d	協調性運動障害	41	4%
[2]②e	自閉症スペクトラム	805	75%
[2]②f	チック・トゥレット症	25	2%
[2]②g	知的障害	259	24%
[2]②h	その他	31	3%
[2]②i	診断・判定・教育的判断なし	37	3%
[2]②0	未回答	2	0%
計		1617	151%

[2]③ 子どもが一番初めに診断された時期

子どもが一番初めに診断された時期		数	比率
[2]③a	3 才以下	126	12%
[2]③b	3 才から小学校就学前	299	28%
[2]③c	小学1 年～3 年	234	22%
[2]③d	小学4 年～6 年	129	12%
[2]③e	中学生	92	9%
[2]③f	高校生	46	4%
[2]③g	高校卒業後	91	9%
[2]③0	未回答	52	5%
計		1069	100%

[2]④ 読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか

読み書きについて療育や指導を受けたことがあるか	数	比率
[2]④a ある	499	47%
[2]④k ない	554	52%
[2]④0 未回答	16	1%
計	1069	100%

[2]④' 読み書きについて療育や指導を受けた場所（複数回答）
（母数は[2]④で「ある」と答えた人数:499）

読み書きについて療育や指導を受けた場所	数	比率
[2]④b 学校	301	60%
[2]④c 児童発達支援センター	47	9%
[2]④d 療育センター	80	16%
[2]④e 医療機関併設の療育機関	83	17%
[2]④f 大学等研究機関	56	11%
[2]④g 児童発達支援事業所	14	3%
[2]④h 放課後等デイサービス事業所	16	3%
[2]④i 学習塾	89	18%
[2]④j その他	61	12%
計	747	150%

[2]⑤ ④'で【(b)学校】の場合、どこで読み書きの指導を受けたか（複数回答）
（母数は[2]④'で「学校」と答えた人数:301）

どこで読み書きの指導を受けたか	数	比率
[2]⑤a 通常の学級	78	26%
[2]⑤b 通級	127	42%
[2]⑤c 支援学級	129	43%
[2]⑤d 支援学校	24	8%
[2]⑤0 未回答	1	0%
計	359	119%

[2]⑥ 読み書きの困難さについて学校や職場の理解がなく、二次障害を起こしたことがあるか

二次障害を起こしたことがあるか	数	比率
[2]⑥a ある	311	29%
[2]⑥j ない	683	64%
[2]⑥0 未回答	75	7%
計	1069	100%

[2]⑥' 二次障害の内容（複数回答）
（母数は[2]⑥で「ある」と答えた人数:311）

二次障害の内容	数	比率
[2]⑥b 不登校	121	39%
[2]⑥c 精神的不安定	183	59%
[2]⑥d うつ状態	60	19%
[2]⑥e 暴力・暴言	90	29%
[2]⑥f 無気力	74	24%
[2]⑥g 引きこもり状態	45	14%
[2]⑥h 働く気がない	22	7%
[2]⑥i その他	39	13%
計	634	204%

[2]⑦ 障害者手帳、判定書を所持しているか

障害者手帳、判定書を所持しているか	数	比率
[2]⑦a 療育手帳(愛の手帳)	441	41%
[2]⑦b 身体障害者手帳	17	2%
[2]⑦c 精神障害者保健福祉手帳	388	36%
[2]⑦d 障害者職業センターの判定	25	2%
[2]⑦e 所持していない	271	25%
[2]⑦0 未回答	12	1%
計	1154	108%

[2]⑧ 子どもが20歳以上の場合、障害基礎年金の支給を受けているか
(母数は[2]①で20才代～50才代と答えた人数:936)

障害基礎年金の支給を受けているか	数	比率
[2]⑧a 支給を受けている	509	54%
[2]⑧b 支給を受けていたが、支給を停止された	4	0%
[2]⑧c 支給を申請したが、不可だった	33	4%
[2]⑧d 申請中	21	2%
[2]⑧e 申請していない	349	37%
[2]⑧W 複数回答	3	0%
[2]⑧0 未回答	17	2%
計	936	100%

[2]⑨ 子どもの現在の状況

子どもの現在の状況	数	比率
[2]⑨a 学校在学中	179	17%
[2]⑨b 一般就労(20時間/週以上勤務)	180	17%
[2]⑨c 障害者雇用(20時間/週以上勤務)	338	32%
[2]⑨d パート・アルバイト(20時間/週末満の勤務)	38	4%
[2]⑨e 就労移行支援事業所	66	6%
[2]⑨f A型就労継続支援事業所	30	3%
[2]⑨g B型就労継続支援事業所、授産所、作業所に通所	96	9%
[2]⑨h 職業訓練(訓練校・委託訓練・職場実習等)	14	1%
[2]⑨i 無職	99	9%
[2]⑨W 複数回答	18	2%
[2]⑨0 未回答	11	1%
計	1069	100%

[3]① 幼少期の困難さ（複数回答）

幼少期の困難さ	数	比率
[3]①a 言葉が遅かった	699	65%
[3]①b 指さしをするのが遅かった	305	29%
[3]①c あちこち走り回っていた	497	46%
[3]①d 遊び友達を叩いたり、嘔みついたりした	183	17%
[3]①e 食卓のコップ等を良く倒した	113	11%
[3]①f 友だちとごっこ遊びをしなかった	602	56%
[3]①g しりとりや言葉遊びが苦手だった	315	29%
[3]①h 絵本などに興味を示さなかった	168	16%
[3]①i 文字に興味を示さなかった	188	18%
[3]①j お絵描きに興味を示さなかった	272	25%
[3]①k 公園の遊具で遊ぶのが嫌だった	126	12%
[3]①l 自分で服を着れるようになるのが遅かった	259	24%
[3]①m 自分の右・左がわかりにくかった	301	28%
[3]①n 約束やルールを守って遊べなかった	356	33%
[3]①o 集団行動が苦手だった	749	70%
[3]①p 偏食が強かった	317	30%
[3]①q こだわりが強かった	611	57%
[3]①r 急に大声を出したりした	156	15%
[3]①s 特に無かった	30	3%
[3]①o 未回答	14	1%
計	6261	586%

[3]② 学齢期の困難さ（複数回答）

学齢期の困難さ	数	比率
[3]②a ノートを取らない	331	31%
[3]②b 書字に時間がかかる	489	46%
[3]②c 板書を写さない	317	30%
[3]②d 書くことを嫌がる	287	27%
[3]②e 夏休みの日記が書けない	374	35%
[3]②f 作文が嫌い	586	55%
[3]②g 漢字学習を嫌がる	266	25%
[3]②h 宿題をしようとする	284	27%
[3]②i 読みに時間がかかる	236	22%
[3]②j 聞き間違いが多かった	239	22%
[3]②k 読み間違いが多かった	221	21%
[3]②l スムースな音読が難しい	295	28%
[3]②m 習った漢字が読めない	118	11%
[3]②n 文字が汚い	473	44%
[3]②o 周囲が気になって授業に集中できない	292	27%
[3]②p 落ち着きがない・多動・多弁	332	31%
[3]②q 勝手に声が出てしまう	127	12%
[3]②r 身体が勝手に動いてしまい授業に集中できない	118	11%
[3]②s 片付けができない	484	45%
[3]②t 字がマス目に収まらない	256	24%
[3]②u 筆圧が強すぎる	166	16%
[3]②v 筆圧が弱い	211	20%
[3]②w 体の動きがぎこちない	398	37%
[3]②x 姿勢を保持できない	273	26%
[3]②y 不器用	629	59%
[3]②z 算数の文章題が苦手	555	52%
[3]②A 距離感がつかみにくく人や物によくぶつかる	178	17%
[3]②B 持ち物をよく失くす	362	34%
[3]②D 筆箱など机の上に置いてある物をよく落とす	175	16%
[3]②E 動作が乱暴	129	12%
[3]②F 用具や道具をすぐに壊す	171	16%
[3]②G 特に無かった	24	2%
[3]②O 未回答	15	1%
計	9411	880%

[3]③ 文字や文書について、現在の生活での困難さ（複数回答）

文字や文書について、現在の生活での困難さ	数	比率
[3]③a 郵便物の内容の細かい把握ができない	394	37%
[3]③b 文字や文書の手書きが難しい	222	21%
[3]③c 本人だけでは手帳の更新など役所等への書類が作成できない	604	57%
[3]③d 電車やバスの行き先などが読めない	47	4%
[3]③e 街中の看板や案内掲示がわからない	51	5%
[3]③f 長い文書だと重要な箇所を見落としてしまう	459	43%
[3]③g 長い文書だと途中から読まなくなってしまう	267	25%
[3]③h 読書などが楽しめない	324	30%
[3]③i 書くことが苦手なので考えをまとめることも苦手	402	38%
[3]③j 契約書の内容などが理解できない	529	49%
[3]③k 設問などの文章の意図の把握が困難	482	45%
[3]③l その他	65	6%
[3]③O 未回答	155	14%
計	4001	374%

[3]④ 働くうえで、読み書きについての困難さ（複数回答）

働くうえで、読み書きについての困難さ		数	比率
[3]④a	読み書きが苦手なので、職種が限られる	266	25%
[3]④b	仕事に必要なメモがとれない	282	26%
[3]④c	文書の内容把握のためには説明が必要	503	47%
[3]④d	文書の読み書きに時間が掛かる	305	29%
[3]④e	報告書などの書類が書けない	441	41%
[3]④f	その他	102	10%
[3]④0	未回答	282	26%
計		2181	204%

[4]① 文書の内容の把握について、ご家族等がしているサポート（複数回答）

文書の内容の把握について、ご家族等がしているサポート		数	比率
[4]①a	文書の代読	133	12%
[4]①b	文書の代筆	177	17%
[4]①c	文書の内容の説明・確認	574	54%
[4]①d	提出期限など文書の管理	453	42%
[4]①e	IT 機器などの使い方の説明	109	10%
[4]①f	全くサポートしていない	289	27%
[4]①0	未回答	68	6%
計		1803	169%

[4]② 文章の読み書きの苦手さを補う手段として本人が身に付けている方法（複数回答）

本人が身に付けている方法		数	比率
[4]②a	パソコン・スマホなどの利用	491	46%
[4]②b	読み上げソフトの利用	6	1%
[4]②c	音声入力ソフトの利用	13	1%
[4]②d	紙の書類にパソコンで入力できるソフトの利用	18	2%
[4]②e	内容の説明や代読・代筆など周囲に支援を求める	275	26%
[4]②f	特にない	351	33%
[4]②g	その他	45	4%
[4]②0	未回答	77	7%
計		1276	119%

[4]③ 将来的に本人が利用できるようになって欲しいサポート（複数回答）

本人が利用できるようになって欲しいサポート		数	比率
[4]③a	パソコンでの文字入力	89	8%
[4]③b	読み上げソフトの利用	40	4%
[4]③c	音声入力ソフトの利用	55	5%
[4]③d	紙の書類にパソコンで入力できるソフトの利用	132	12%
[4]③e	安心して気軽に相談できる窓口	781	73%
[4]③f	内容の説明や代読・代筆などをしてくれる日常生活上の支援者	401	38%
[4]③g	支援機器やサービスの情報提供	254	24%
[4]③h	動画や音声で伝えられるソフトの導入	104	10%
[4]③i	特にない	106	10%
[4]③0	未回答	58	5%
計		2020	189%

[4]④ 家族のサポートが無くなった場合、心配なこと（複数回答）

家族のサポートが無くなった場合、心配なこと		数	比率
[4]④a	一人では契約(アパートやスマホなど)ができない	623	58%
[4]④b	一人では医療機関で問診票などが書けない	217	20%
[4]④c	家族が入院した時など医療機関や保険会社に提出する書類作成を任せられない	751	70%
[4]④d	手帳の更新など行政関係書類が一人では処理できない	624	58%
[4]④e	一人では金融機関の利用ができない	298	28%
[4]④f	商品や製品の使い方など説明書を読まないで、自分勝手に操作する	241	23%
[4]④g	本人が内容を理解していない契約による損失や多重債務を負う	661	62%
[4]④h	動画や音声で伝えられるソフトの導入	73	7%
[4]④i	特になし	97	9%
[4]④0	未回答	41	4%
計		3626	339%

[4]⑤ 本人が相談できる人(親や家族以外)または、機関

本人が相談できる人(親や家族以外)または、機関の有無		数	比率
[4]⑤a	ある	694	65%
[4]⑤h	ない	337	32%
[4]⑤W	複数回答	9	1%
[4]⑤0	未回答	29	3%
計		1069	100%

[4]⑤' 本人が相談できる人(親や家族以外)または、機関（複数回答）
 (母数は[4]⑤で「ある」と答えた人数:694)

本人が相談できる人(親や家族以外)または、機関		数	比率
[4]⑤b	友人	136	20%
[4]⑤c	職場の同僚	39	6%
[4]⑤d	職場の上司	139	20%
[4]⑤e	支援機関の職員	433	62%
[4]⑤f	学校の先生	79	11%
[4]⑤g	その他	140	20%
計		966	139%